

地域ぐるみで育てる未来の担い手 ～連携協定に基づく「担い手育成」とその成果～

- ・上川北部森林管理署 奥瑠瑠森林事務所 一般職員 山崎 雄大
- ・下川町役場 森林商工振興課 事務補 高橋 風宇太・旭川農業高等学校 3年生 菊地 雄斗
- ・北海道上川総合振興局 北部森林室 普及課 専門普及指導員 伊藤 裕子

背景・目的

林業労働者の確保は山村の活性化や雇用の拡大のために極めて重要ですが、現在林業労働者の高齢化率は高く、将来的に林業労働者を安定的に確保することが地域の課題となっています。こうした状況を踏まえて下川町を含む4機関が連携し、未来の林業の担い手となる人材の育成及び確保を目的に、平成28年度から北海道旭川農業高等学校森林科学科の生徒を対象に、下川町有林や町内の施設等を活用した担い手育成プログラムを展開しています。

協定の内容

このプログラムを長期的な取組とするため、平成29年5月16日に下川町、北海道旭川農業高等学校、上川北部森林管理署、上川総合振興局北部森林室の4者により「北海道旭川農業高等学校実習等の連携と協力に関する協定」を締結し、関係機関の連携と協力を明確なものとしました。

役割分担

- ①旭川農業高等学校は、1年生から3年生までの体系的かつ効果的な実習等ができるよう内容を提案
- ②上川北部森林管理署、上川総合振興局北部森林室は、実習等における指導者の確保のために必要な人材及び資材を提供
- ③下川町は、実習に必要な森林、宿泊施設の提供とともに、実習等が円滑に実施できるよう関係機関との連絡調整を行う。



協定締結式

1年生

山づくりのスタートとなる植栽を主体とした実習です。



2年生

植栽後の保育作業である下刈り除伐及び枝打ちを行い、保育管理の重要性の理解を促します。



インターンシップ

チェーンソーや鋸を使用した除伐、GIS測量など森林を育てていく上で必要なことを経験します。



3年生

森林調査や実際の伐採現場の見学などにより一連の森林整備の流れを理解します。



アンケート結果から読み取れる成果と改善点

成果

実習を通して、生徒に現場業務の重要性と共に林業機械の効率性、スマート化の必要性を感じてもらえた。

毎年、林業関係のインターンシップに参加している生徒の約7割は林業関係に就職している。

改善点

アンケート結果を関係機関に共有し、下川ならではの体験や知識を提供できるような実習プログラムを確立する。

進路選択のほとんどが就職であり、進路の幅を広げるためにも、北の森づくり専門学院などの進学に関する情報も発信していく必要がある。

まとめ

これらの取組により、平成29年1名、平成30年1名、令和2年1名（予定）が下川町森林組合に就職しており、関係機関が連携した担い手育成プログラムの成果が表れています。

今後も地域の関係機関が連携・協力して行う3年間の継続的かつ体系的なプログラムを通じて、林業の現場や森林資源の循環利用への理解度の向上とともに、未来の林業を担う人材の育成に繋がるよう取り組んでいきます。